



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (22) 7207 番

96.4.26 No. 4385

幕張電車区で 有機溶剤の危険作業!

安全・人命をも 無視した千葉支社

水性ペイントだ から安全のウソ

二月末から幕張電車区で行われていた交検庫のピット・通路の塗装作業が四月二四日、中止となった。

この作業には、そもそも重大な問題があった。本来、専門知識をもった業者がやるべき作業を「経費節減」のためだけに、全く素人である检修社員にやらせたのだ。

当局は、簡単な作業だと称したが、実際は、まずコンクリートの表面を落とし、下塗りをし、セメントをまぜてさらに塗った上で上塗りをして硬化させるという大変な作業である。計画的にも、半年間の大作業だ。作業が始まってみると交検庫はシンナーの匂いが充満し、削ったコンクリートの粉がたち込めて、交換作業もできないような状態になった。

勤務千葉は、団交の際に、この点を問題にしたが、千葉支社は、「水性ペイントだ」と称して、安全上問題ない」と称して、実態の調査をすることもなく、四月まで作業を強行し続けたのである。

「気分が悪い」、
「腕がしびれる」

その間も、現場では、塗装班からも、同じ交検庫で同時作業

をしている交検班からも、「気分が悪い」「喉が痛い」「腕がしびれる」等の声が相次いだ。塗装班からも、区に対しては、「身体検査をしてほしい」との要望が行なわれたが、身体検査も行なわれないままであった。

事態を重く見て、本部で調査したところ、塗装に使っているペイント、硬化剤など数種類の薬剤は、水性ペイントなどではなく、「健康に有害な物質を含んでいる」「有機ガス用防毒マスク又は送気マスク、頭巾、保護メガネ、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋」等の保護具を着用するよう注意書が出た。

「緊急申し入れ」 で作業中止!

本部は、四月二三日、この実態にふまえ、作業の即刻中止等を求めて申し入れを行なったが、ここに至ってようやく、千葉支社は、あわてて作業を一旦中止するに至ったのである。「申し訳なかつた。有機溶剤だ」という問題がでてくる可能性がある」と言うのだ。しかし、有機溶剤であることなど、百も承知で、組合の指摘を無視して強行し続け、社会的な問題になると思うや、「申し訳なかつた」の一言で済ませようというのだ。絶対に許すことはできない。

交検班には保護 具ひとつ無し!

この作業にあたって、塗装班には、マスク、使い捨てのつなぎ服、ゴーグル等が支給された。それ自体、区当局は、作業が人体に有害な危険作業であったことを百も承知していたということである。しかし、しかし、危険性等についての教育は一言もされていない。また、マスクも当初支給品は単なる防塵用のものに過ぎなかったがこれも途中で交換されている。

しかも、同じ交検庫で同時作業をさせられている交検班は、防護マスクひとつ無し、という状態である。そして交検庫全体に有機溶剤の匂いが充満し、鼻をつく。現場から「気持ちが悪い」との声が続出するのは当たり前だ。

現場の組合員は次のように言っている。「当初、塗装班は本意でもない作業をやらされているので、交検班はガマンしていた。しかし、交検Bのピットの塗装作業開始で塗装場所が交検Aに近付くにつれ、有機溶剤の匂いがひどくなり、これではみんなシンナー中毒になってしまふ」と思い、交検班全員が口を揃えて何とかしてくれと言う状況

「早く仕上げろ」 と突貫作業!

しかも間、区当局は、作業の遅れにクレームをつけ、行方首席助役が陣頭指揮を取り、塗装班に指定された者のみならず、機動班や転削班、はては助役まで動員して、安全のことなど頭の片隅にもおこなうことなく、突貫作業が行なわれていた。

区当局も、当初は、「特に仕上げの時期を制約する訳ではないので、急がずにやってくれ」と言っていたのが、行方助役が幕張に来て以降は、「早く仕上げろ」と、土・日の出勤まで強要されるなど、作業のあり方が体が全く変えられてしまったのである。

労働者の命や安全は二の次!

作業が人体に有害であることは、幕張電車区交検庫に積み上げられた塗料の缶を見れば一目瞭然である。しかし、当局は団交でウソをついて、問題ないと回答し、現場の労働者がいくら声をあげ、必死で訴えても完全に無視される。区当局は、行方首席助役を先頭に作業だけが闇雲に急がされる。労務対策を一切に優先するあまり、安全など最も重要なことが頭の片隅からもぬけてしまっているのだ。これが現在のJRの現実である。

●九〇・三スト損賠公判
五月一〇日(金) 一三時三〇分
集合 千葉地裁一階ロビー
※中野委員長の証言です。
各支部から結集を。